

# 四万十町

## 指定・選定・登録文化財一覧

平成 27 年 4 月 1 日現在

### ■国指定

※資料：文化庁「国指定文化財等データベース」

[http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index\\_pc.asp](http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.asp)

#### 重要文化財（建築物／近世以前／民家）

名称	構造形式	所在地	所有者	指定年月日
旧竹内家住宅	1 棟 桁行 10.6m 梁間 5.2m 寄棟造 茅葺	四万十町大正 1311 番地ノ 2 号	四万十町 (町教育委員会)	指定番号 01863 昭和 47 年 5 月 15 日
四国中央山地に分布する部屋を横一列にならべた農家のうちで竹内家は小型ものの典型である。土間が非常にせまいのも山地の家らしい。またこの家は建てられた当初外壁を茅で作っていたがこれは日本の古い農家の姿を示す貴重な例である。 位置/十進緯度経度：33.19315589, 132.97064883				

#### 重要無形民俗文化財（民俗芸能／神楽）

名称	所在地	代表・保護団体名	指定年月日
土佐の神楽 (幡多神楽)	四万十町（十和地区）	幡多神楽保存会	指定証書番号 1 昭和 55 年 1 月 28 日
<p>高知県の四国山地に沿った東西一帯に多くの神楽が伝承されている。神楽には巫女神楽、出雲神楽、伊勢神楽、獅子神楽、山伏神楽等の系統があるが、この地の神楽は鈴、榊等々の採り物を手にしての舞や記紀の神話を素材にした劇的な舞などから構成される出雲神楽の系統に分類することが出来る。これらは当地方独特の様相を呈するとともに、今日一般的な神楽よりも一時代前のものとみなされる要素をもとどめている。剣をとってさっそうと舞う姿（「二天【にてん】」「三刃の舞」）や「盆（膳）の舞」「長刀の舞」などの曲芸的あるいはスリルを感じさせる演目、鬼面の者が登場して悪さをし、言いまかされて宝物を置いて逃げ去る次第（「四天鬼神【してんきじん】」「悪魔払」）などに力をそそいでいる点はこの地域神楽の特徴である。また物部村に祈禱を主とした祭文【さいもん】神楽が現存しているように、舞の詞章に語り物的要素をのこしているところがいくつかあり、大方の神楽が近世復古神道にその解釈や唱文を依拠しているのに比して貴重である。</p> <p>【一括指定の 8 保護団体名】</p> <p>いざなぎ流御祈禱保存会、岩原・永渕神楽保存会、本川神楽保存会、安居神楽保存会、池川神楽保存会、多野川岩戸神楽保存会、梶原町津野山神楽保存会、東津野村津野山神楽保存会、幡多神楽保存会</p>			

## 重要文化的景観

名称	選定年月日	区域	面積
四万十川流域の 文化的景観  中流域の農山村 と流通・往来	平成21年2月12日	高岡郡四万十町日野地、窪川中津川、上秋丸、壱斗俵、米奥、市生原、作屋、七里、西川角、東川角、宮内、根々崎、根元原、仕出原、香月が丘、神ノ西、窪川、大井野、西原、口神ノ川、若井、大向、天ノ川、南川口、秋丸、野地、家地川、弘瀬、上宮、大正北ノ川、上岡、下岡、瀬里、希ノ川、大正、小石、江師、西ノ川、大正大奈路、木屋ケ内、大正中津川、下道、下津井、浦越、里川、茅吹手、津賀、昭和、大井川、河内、小野、久保川、十川、大道、十和川口、広瀬、井崎の各一部	約5,303.6ha
<p>「四万十川流域の文化的景観 中流域の農山村と流通・往来」は、四万十川中流域が示す豊かな自然環境と、農林業によって形成される多様な土地利用、流通・往来の営みによって生み出された市街地によって形成される文化的景観である。四万十町は四万十川中流域に位置し、急峻な山に囲まれた上流域と比較して多様な土地利用の様態を示している。本地区は、その特性から大きく、大正奥四万十区域、四万十川中流区域、高南台地区域の3つに区分することができる。同じ四万十川中流域にありながら3地区は自然的・社会的条件の違いに基づく特徴を示し、それぞれが相俟って豊かな文化的景観を形成している。大正奥四万十区域の人々は主に林業に従事し、山地を切り開いて棚田や段々畑を営んできた。四万十町は、明治から昭和にかけて近代林業の拠点として成長したため、木材の搬出を担った筏師が暮らすなど、独特の様相が見られた。特に、四万十川中流区域に所在する小野地区には、四万十川流域の林産物を一手に扱う商人達が行商し、ミツマタやワラビ粉とともに、コウゾを原料とした仙花紙と呼ばれる和紙を扱った。この和紙は、四万十川に晒して作られ、戦前まで帳簿用紙・戸籍用紙・土地台帳用紙等として大量の需要があった。高南台地区域には大規模な田園地帯が広がるが、この区域は仁井田米に代表される県内有数の穀物地帯である。農地が生み出す富みは四国霊場第37番札所の門前町である窪川の発展を促し、商業を基盤とする都市的な営みを四万十川中流域に生み出した。</p>			

## 史跡・名勝・天然記念物

名称	種類	所在地	所有者・管理団体	指定年月日
仁井田のヒロハチ シャノキ	天然記念物	四万十町魚の川	四万十町 (町教育委員会)	昭和18年8月24日
	<p>根元周囲8.5メートル、目通幹圍4.8メートル、推定樹齢700年以上の老樹なるも樹勢なほ衰へずヒロハチシャノキの巨樹として稀有のものなり。</p> <p>位置/十進緯度経度：33.27713888, 133.15108333</p>			
小鶴津の興津メ ランジュ及びシュー ドタキライト	天然記念物	四万十町志和	四万十町 (町教育委員会)	告示番号：13 平成23年2月7日
	<p>現在の日本列島の骨格は、3億年ほど前からの海洋プレートの沈み込みに伴う地層の付加作用により形成されてきたことが明らかになってきた。高知県四万十町小鶴津の海岸には、こうして付加された四万十帯と呼ばれる地層が典型的にみられる。</p> <p>海嶺で形成された海洋プレートは、やがて日本列島付近に到達し、沈み込みを開始する。この間、海洋プレート上には、プレートの移動に伴い玄武岩・石灰岩・チャート・多色頁岩などの地層が順番に堆積してゆく。さらに、陸地に近づいた海洋プレートの地層の上には、陸側から供給された砂や泥の地層が堆積する。こうした地層の順番は、海洋底層序と呼ばれている。海洋底</p>			

層序を示す地層群の一部は、プレートが沈み込む際にこそげ取られて、日本列島に付け加わってゆく。こうして付け加わった地層が、付加体である。付加体は、海洋プレートの上に堆積した地層と、陸側から供給された砂岩や泥岩の地層が、複雑に混じり合い著しく変形したメランジュと呼ばれる地層と比較的変形の程度の少ない砂岩泥岩の互層の部分とがあり、ボリューム的には、砂岩泥岩の互層（整然層）が多い。

小鶴津の海岸では、上述のプロセスで付加された興津メランジュと、それと断層で接する北側の野々川層の整然層からなる典型的な付加体の地層が分布する。

興津メランジュは、それぞれ北側は野々川層と南側は中村層の整然層と断層を介して接する。分布の幅は約1キロメートルで、黒色頁岩を基質とし、チャートに乏しく、枕状溶岩などの玄武岩が多量に産する。黒色頁岩には若干の凝灰岩層や砂岩層がレンズ状に含まれ、露頭スケールでは分断されて連続性が良くない。しかしながら地質図スケールでは、玄武岩層等は側方に連続的に追跡可能であり、厚さ数十～数百メートルを単位とした海洋底層序が少なくとも5回覆瓦状に繰り返されるものとされている（坂口他2006）。

興津メランジュと北側の野々川層とを境する興津断層からは、高速での断層運動により岩石が溶けた証拠とされるシュードタキライトが発見されている（Ikesawa et al., 2003）。

小鶴津の海岸に露出する興津断層は、平均方位N55. Eでほぼ垂直に近い。断層帯は最大幅十数メートルになるが、中核部の幅は5～6メートルで、変質して赤茶けた色を呈する玄武岩が含まれており、変形集中帯が繰り返す。変形集中帯は、岩片とアンケライト、石英の鉱物脈と、幅数mm程度の黒色の火山岩であるシュードタキライトから構成される。

シュードタキライトは、過去の地震を起こすような断層運動の証拠となるもので、プレートの沈み込み帯からの発見は世界で初めてである。鉱物脈とシュードタキライトの脈は互いに切り合う関係がみられることから、こうした断層運動が繰り返し生じたことを示している。現在の四国沖の南海トラフでは、海洋プレート（フィリピン海プレート）が沈み込みを続け、付加体が形成されつつあり、また南海地震などの海溝型の巨大地震を発生させている。

興津メランジュの中には、プレートの沈み込み帯としては世界で始めて発見されたシュードタキライトがあり、南海トラフで繰り返されている巨大地震の発生メカニズムを知る上での手掛かりになるものでもあり、地震防災上も重要である。海洋プレートの沈み込みに伴う付加体から形成されてきた日本列島の形成メカニズムを示す興津メランジュと、興津メランジュに表れているシュードタキライトを併せて天然記念物に指定し、保護を図ろうとするものである。

位置/十進緯度経度：33. 22160845, 133. 24694353

### 登録有形文化財（土木構造物／建築物）

名称	構造・形式	所在地	登録年月日
一斗俵沈下橋	▼土木構造物／昭和10年架橋 鉄筋コンクリート造9連桁橋、 橋長61m、幅員2.5m	四万十町一斗俵	登録番号：39-0035 平成12年12月4日
	四万十川上流域に架かる橋長61m、幅員2.5mの鉄筋コンクリート造9連桁橋。支間長に応じて桁高を変える。名称は、橋が高水時に水面下に潜ることに由来し、四万十川流域の沈下橋の内、現存最古のもの。溪谷景観と調和した姿が人々に親しまれている。 位置/十進緯度経度：33. 28480464, 133. 10967524		
里川橋 (沈下橋)	▼土木構造物／昭和29年 鉄筋コンクリート造13連桁橋	四万十町浦越	登録番号：39-0243 平成20年3月7日

名称	構造・形式	所在地	登録年月日
	橋長 84m、幅員 2.8m 四万十川中流域に位置する。橋長 84m、幅員 2.8m の鉄筋コンクリート造 13 連桁橋で、スパンは流心付近で最大の 12m とする他は 6m とする。高欄や親柱を設けず、縦断面勾配を緩やかな凹形とする沈下橋特有のつくり。四万十川に架かる沈下橋の好例。 位置/十進緯度経度：33.19804037, 132.94568829		
北の川口橋	▼土木構造物／大正 8 年架橋 石造単アーチ橋、 橋長 18m、幅員 3.4m	四万十町昭和	登録番号：39-0244 平成 20 年 3 月 7 日
	四万十川右支流北の川の最下流部、四万十川との合流点近くに架かる道路橋。岩盤上に築かれた、橋長 18m、スパン 13.5m、幅員 3.4m のほぼ半円アーチ形の石造単アーチ橋で、スパンドレルは精緻な布積とする。高知と宇和島を結ぶ旧幹線道路施設。 位置/十進緯度経度：33.22754239, 132.91279039		
旧大正林道 佐川橋	▼土木構造物／昭和 19 年架橋 鉄筋コンクリート造 3 連アーチ橋、 橋長 82m、幅員 2.0m、石垣付	四万十町下津井 字ヲグラトコ	登録番号：39-0245 平成 20 年 3 月 7 日
	四万十川水系橋原川の中流域に架かる。橋長 82m、幅員 2.0m の鉄筋コンクリート造 3 連アーチ橋で、スパン 30m の欠円アーチを中心として、スパン 20m の欠円アーチを左右に配し、さらに兩岸に谷積石垣を連続的に築く。旧大正林道を代表する大規模橋梁。 位置/十進緯度経度：33.29647226, 132.9440407		
木屋ヶ内橋 (沈下橋)	▼土木構造物／昭和 28 年架橋 鉄筋コンクリート造 4 連桁橋、 橋長 27m、幅員 3.0m	四万十町木屋ヶ内	登録番号：39-0246 平成 20 年 3 月 7 日
	四万十川水系橋原川の下流域に架かる沈下橋。岩盤上に建設された橋長 27m、幅員 3.0m の鉄筋コンクリート造 4 連桁橋で、スパンは流心付近で最大の 8m とする。増水時の水流を考慮し、上流側の水切りを鋭角につくり、桁の両側面を曲面状とする丁寧なつくり。 位置/十進緯度経度：33.24040027, 132.97992762		
旧大正林道 木屋ヶ内トンネル	▼土木構造物／昭和 19 年 鉄筋コンクリート一部コンクリート造、 長さ 138m、幅員 2.5m	四万十町木屋ヶ内	登録番号：39-0247 平成 20 年 3 月 7 日
	木屋ヶ内橋より約 100m 南方に位置する旧森林鉄道施設。延長 138m、幅員 2.5m とした、直線状のコンクリート造隧道。坑門は、馬蹄形坑口の頂部に要石形をあしらう簡素なつくりで、表面はモルタル塗仕上げとする。旧大正林道で最長のトンネル。 位置/十進緯度経度：33.23876061, 132.97940578		
旧大正林道 柿ノ木サコ橋	▼土木構造物／昭和 19 年架橋 鉄筋コンクリート造単アーチ橋、 橋長 7.0m、幅員 3.8m、石垣付	四万十町木屋ヶ内	登録番号：39-0248 平成 20 年 3 月 7 日
	四万十川水系橋原川右支流赤良木川の最下流部、橋原川との合流点近くに架かる。橋長 7.0m、スパン 5.0m、幅員 3.8m、半円アーチ形の鉄筋コンクリート造単アーチ橋で、コンクリート打放しとし、兩岸には表面布積の石垣を連続的に築く旧森林鉄道施設。 位置/十進緯度経度：33.24666483, 132.97171877		
旧大正林道 ユス谷川橋	▼土木構造物 鉄筋コンクリート造単アーチ橋、 橋長 8.0m、幅員 2.0m	四万十町江師	登録番号：39-0249 平成 20 年 3 月 7 日
	四万十川水系橋原川左支流ユス谷川の最下流部、橋原川との合流点近くに架かる。橋長 8.0m、スパン 5.1m、幅員 2.0m、半円アーチ形の鉄筋コンクリート造単アーチ橋で、兩岸には表面布積の石垣を連続的に築く。		

名称	構造・形式	所在地	登録年月日
	栲原川沿いに築かれた旧大正林道関連施設。 位置/十進緯度経度：33.20759286, 132.97577454		
ユス谷川橋	▼土木構造物 昭和10年頃架橋 石造及び煉瓦造単アーチ橋、 橋長8.2m、幅員3.1m	四万十町江師	登録番号：39-0250 平成20年3月7日
	旧大正林道ユス谷川橋の東側に架かる道路橋。橋長8.2m、スパン5.2m、幅員3.1mとした半円アーチ形の単アーチ橋で、アーチ部分を3枚厚の煉瓦で築くほかは、間知石の布積とする。煉瓦と石材を使い分け、精緻に築かれた小規模なアーチ橋。 位置/十進緯度経度：33.20759167, 132.97581024		
大正橋	▼土木構造物／昭和3年 鋼製3連ワーレントラス橋、 橋長138m、幅員4.6m	四万十町大正 字尾崎	登録番号：39-0251 平成20年3月7日
	栲原川の最下流部、四万十川との合流点近くに架かる道路橋。150ftのワーレントラスを用いて築かれた橋長138m、幅員4.6mの鋼製3連トラス橋で、花崗岩製の親柱には幾何学的な装飾をあしらう。栲原川に架かる最大の近代橋梁。 位置/十進緯度経度：33.19936248, 132.9707221		
旧門脇家住宅主屋	▼建築物 木造平屋建、茅葺、 建築面積62㎡	四万十町大正 32-1	登録番号：39-0252 平成20年3月7日
	南面する入母屋造茅葺の民家で、もとは山間の下津井集落に所在。桁行5間梁間3間半規模で、桁行に大きく3分し、トコ付の10畳間を右手に、中央に2畳と3畳を前後に配し、左手を入口土間と囲炉裏間とする。当地域における山村民家の特色を備える民家である。 位置/十進緯度経度：33.18361847, 132.97295617		

#### 国選択 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

名称	種別	所在地	登録年月日
土佐の茶堂の習俗	風俗習慣	高知県	昭和52年6月1日
	高知県の北西部山間の集落には、これに接する愛媛県山間部の集落とともに、茶堂と呼ばれる吹き抜けの簡素な小堂が旧道に沿う集落の境にある。正面に弘法大師などの祭壇を設けるこの施設は、いわゆる村四国の札所になっている場合が多く、盛夏のころ遍路・商人などに接待がなされ、村人によって祭りが行われた。その習俗も衰滅にひんしているため、茶堂に係わる習俗・施設を総合的に調査し記録するものである。 位置/十進緯度経度：33.291745, 132.943481 他		

## ■ 県指定の文化財

※資料：高知県教育委員会文化財課HP「高知の文化財」

<http://www.kochinet.ed.jp/bunkazai/bunka-list.htm>

名称	種類	所在地	指定年月日
木造如来形立像	県保護有形文化財 (美術工芸品-彫刻)	四万十町大正 熊野神社	昭和44年8月8日
	<p>像高 88.7cm。</p> <p>肉髻(につけい)を半円形に高くつくり、螺髪(らはつ)は小粒の螺髪を切り付け、衣(のうえ)を偏袒右肩(へんたんうけん)につけ右肩に祇支(ぎし)をかけて直立する。右手は前膊部(ぜんはくぶ)先を、左手は前膊部を失っているために像名はわからない。</p> <p>スギの一木造(いちぼくづくり)、彫眼(ちょうがん)の彩色像で、眉、目、ひげを墨描きとするほかほとんど剥落(はくらく)しているものの、肉身部は肌色、衲衣は朱彩であったと思われる。頭体を通して背面を割り矧(は)ぎ、頭部を三道下で割り離す。小像ながら、丁寧なつくりといえよう。</p> <p>本地仏(ほんじぶつ)らしく簡潔なもので、衣文(えもん)も浅く類型化しているが、ひきしまった面相(めんそう)、ふくらみのある体部の肉付けなど、なかなか巧みな彫技をみせている。</p> <p>建久3年(1192)に紀州熊野より勧請したものというが、制作もその頃であろう。</p> <p style="text-align: right;">位置/十進緯度経度：33.192120, 132.972207</p>		
木造地藏菩薩立像	県保護有形文化財 (美術工芸品-彫刻)	四万十町大正 熊野神社	昭和44年8月8日
	<p>像高 63.5cm。</p> <p>円頂(えんちょう)で髪際線(はっさいせん)をつつらず、腰前の衲衣(のうえ)の下に裳(も)の上端部をのぞかせ、沓(くつ)をはいて蓮華座(れんげざ)に直立する。</p> <p>スギの一木造(いちぼくづくり)、彫眼(ちょうがん)の彩色像であるが、彩色はほとんど剥落(はくらく)して素地(そじ)をあらわしている。頭体を通して一木で彫り出し、両手首から先を柄(ぼぞ)で止めていたが、いずれも失っている。</p> <p>本地仏(ほんじぶつ)らしく簡潔な彫り口で、衣文(えもん)線も極端に省略しているが、小首をかしげるようなポーズに味わいがある。</p> <p>如来形とともに、建久3年(1192)に紀州熊野より勧請したものと伝え、制作もほぼその頃と考えてよからう。</p> <p style="text-align: right;">位置/十進緯度経度：33.192120, 132.972207</p>		
銅矛	県保護有形文化財 (美術工芸品-考古資料)	四万十町市生原・八坂山 高加茂神社	昭和59年3月16日
	<p>高加茂神社には、6本の銅矛が御神体として祀られている。</p> <p>6本の銅矛のうち、ほぼその全容をすることのできる銅矛は5本あって、残り1本は銅矛の身部と袋部が破損して残っている。また、ほぼ全容を知ることのできる5本の銅矛も、ただ1本だけがほとんど傷みのないものであるが、それでも刃こぼれがひどい。この銅矛の全長は82.2cmであり、型式中広形の式である。他の5本の銅矛もすべて中広形式である。</p> <p>『南路志』をみると、もとは市生原村の川内大明神の御神体であった記されている。明治になって、川内大明神は同じ市生原村の高加茂神社に合祠(ごうし)され、今は高加茂神社の御神体となっている。</p> <p style="text-align: right;">位置/十進緯度経度：33.274467, 133.117025</p>		

名称	種類	所在地	指定年月日
興津八幡宮の古式神事	県保護無形民俗文化財	四万十町興津 興津八幡宮 興津八幡宮氏子会	昭和 39 年 6 月 12 日
	<p>10 月 15 日、興津八幡宮秋祭りの神事で、宮舟、花台、花取踊り、流鏝馬を主な内容とする。</p> <p>神幸に先立って寺出でと称して旧別当円蔵寺跡から太鼓、烏毛、ほら貝、獅子などの一行が神社に向けて出立するが、神仏習合時代の名残りとして注目される。</p> <p>神幸では神輿（みこし）を浦分から出される宮舟が追いかける賑やかさがある。神を勇めて、豊漁を祈願するものである。</p> <p>浜辺の旅所で行われる花取踊りは、郷分から出され、白の上衣に黒袴姿で主として円陣をなして踊る。浦分漁村部、郷分農村部と祭りの役割が決めていることも特色の1つである。</p> <p>神幸が終了して流鏝馬が「行われる。射手を大蔵さんと称し、第1矢では天地和楽、地福円満楽と唱えるが、これに先立ち素走り」と称して男を追いかける風がある。</p> <p style="text-align: right;">位置/十進緯度経度：33.167364, 133.208885</p>		
土佐の太刀踊 (川奥ノ花取踊)	県保護無形民俗文化財	四万十町川奥 白河神社 川奥地区	昭和 40 年 6 月 18 日
	<p>旧暦 7 月 28 日、白河神社で奉納されるが、踊り場は川奥集会所近くの広場である。</p> <p>ここでの踊りに先立って、踊り子たちは山ノ神に集まり全員檜（かし）の棒を手にして踊り、近くの紫折（演目は、しめ切り、いはは、庭払、えつき、車太刀、三つづくなみ、脇ばさみ、逆手鎌、ようろ、違い鎌、天井車、違い薙刀（なぎなた）、切り分け、膝つき、引きはの 15 通りである。</p> <p>踊り子の数だけ薙（むしろ）を縦長、円形に敷き、大太刀、小太刀が交互に並び、太鼓打ちもこの輪の中に位置する。</p> <p>太鼓打ち 2 名のうち、1 名は烏毛、1 名は烏帽子（えぼし）をかぶり、大太刀は烏毛、小太刀は烏帽子の冠り物が特色である。衣装は、白上衣に黒袴。</p> <p>なお、27 日の夜には、山ノ神への道筋には照明が灯されて、2～3 の演目が奉納される。</p> <p style="text-align: right;">位置/十進緯度経度：33.276368, 133.097692</p>		
地吉の大念仏	県保護無形民俗文化財	四万十町地吉 地吉民俗保存会	昭和 54 年 4 月 1 日
	<p>8 月 5 日、神道は招魂社、仏は吉祥寺で祖霊祭が行われるが、地吉大念仏は、吉祥寺での施餓鬼供養（せがきくよう）である。集会所を兼ねた吉祥寺軒先には施餓鬼棚が設けられ、三界万霊と新仏を祀る。</p> <p>大念仏は、神念仏、盆念仏、村座、大念仏、ケテン、捨て念仏から構成される。念仏唱和の 1 単位を庭と称し、各祖霊に捧げる庭数が決められている。芸能的演出をみせるのは、大念仏、ケテン、捨て念仏で、護法トビと称する数人の少年が竹棒（昔は真剣）を持ち、箒（ほうき）、団扇を持った者を加えて太鼓の乱打とともに跳びはねるように踊り巡る。ケテンになると、ハツリ、鎌持ちも加わり同様に巡る。捨て念仏では、トビ子が竹棒を投げ捨てる。</p> <p>記録には三学寺伝法とあるが、その意は定かでない。</p> <p style="text-align: right;">位置/十進緯度経度：33.251878, 132.813313</p>		
古城の大念仏	県保護無形民俗文化財	四万十町古城 山瀬・追和組中	昭和 54 年 4 月 1 日
	<p>8 月 6 日、古城にある観音堂で行われる施餓鬼供養（せがきくよう）である。</p> <p>大念仏は、神念仏、御刀念仏から構成される。</p> <p>神念仏は、地神荒神、三界万霊、地蔵大菩薩、観音堂以前の寺主たちなどへの供養念仏である。神念仏は、境内中央に据えた太鼓と鉦（かね）とによる念仏唱和であり、両足を前後左右に出すだけの単調な動きである。</p> <p>御刀念仏は三界万霊、寺主、諸々霊供養のものであるが、これには芸能的</p>		

名称	種類	所在地	指定年月日
	<p>演出をみせる特色がある。まず山伏が進み出て東西南北に庭誉めの口上をすると、念仏引、柴刈、団扇、太刀、道刈り、庭払、ハツリといった役が境内に進み出て、念仏唱和に続く太鼓の乱打されるなか太刀を振り、鎌で草を刈り、団扇を打ち振り、箒（ほうき）で地面を払い、ハツリで伐木するさまなどを演じながら踊り巡るものである。</p> <p>位置/十進緯度経度：33.263343, 132.828977</p>		
地吉の夫婦スギ	県天然記念物	四万十町地吉 855 地吉八幡宮境内	昭和 40 年 6 月 18 日
	<p>四万十町地吉の地吉八幡宮境内にある 2 本のスギの大木である。</p> <p>大きい方は、胸高周囲約 8.5m、樹高約 55m、小さい方が胸高周囲約 4.8m、樹高約 50m、推定樹齢はいずれも約 700 年を超えている。</p> <p>両方とも地上 30m あたりまではまっすぐに伸び、スギの木の特性を保持している。</p> <p>あまりの見事さに、昭和 30 年代に木材ブローカーがこの木を買いに来たが、御神木のため、地元の氏子が売ることを拒否したとのことである。</p> <p>スギはクスノキとともに樹齢が長く、県内にもあちこちに老齢巨樹が存在する。しかし、この夫婦杉は樹幹の美しさでは県内有数のものである。</p> <p>位置/十進緯度経度：33.254174, 132.808979</p>		
ヤイロチョウ	県天然記念物	高知県全域	平成 5 年 4 月 1 日
	<p>高知県の県鳥。スズメ目ヤイロチョウ科に属する。</p> <p>茶褐色、コバルト色、緑、赤、白、黒、黄、青で彩られ、日本で最も美しい鳥の一つ。</p> <p>インド、東南アジア、中国南部、台湾、オーストラリア、アフリカに分布し、日本には夏鳥として飛来する。</p> <p>日本海側では秋田県から北九州、太平洋側では神奈川県西部以南で記録があるが、繁殖は和歌山、高知、愛媛、長崎、大分県で確認されているのみ。</p> <p>高知県には、5 月上旬に西部の山間部に飛来し、十和村（現：四万十町）を中心に確認されている。</p> <p>6 月に産卵し、10 月に南に帰る。</p> <p>ミミズを主食とし、昆虫も食べる。</p> <p>位置/十進緯度経度：</p>		



## ■町指定の文化財

分類	種類	名称	指定年月日	所在地
有形文化財	建造物	文珠堂	昭和 41 年 5 月 9 日	西原
有形文化財	建造物	道文神社	昭和 43 年 3 月 19 日	打井川
有形文化財	建造物	高岡神社	昭和 47 年 8 月 1 日	仕出原
有形文化財	建造物	茶堂	昭和 57 年 5 月 20 日	下津井
有形文化財	建造物	庄屋屋敷	平成 5 年 1 月 20 日	大井川
有形文化財	建造物	河内神社	平成 7 年 6 月 30 日	里川
有形文化財	建造物	河内神社	平成 7 年 6 月 30 日	浦越
有形文化財	建造物	河内神社	平成 7 年 6 月 30 日	茅吹手
有形文化財	建造物	河内神社	平成 7 年 6 月 30 日	津賀
有形文化財	建造物	河内神社	平成 7 年 6 月 30 日	野々川
有形文化財	建造物	炎神社	平成 7 年 6 月 30 日	昭和
有形文化財	建造物	大井河神社	平成 7 年 6 月 30 日	大井川
有形文化財	建造物	河内神社	平成 7 年 6 月 30 日	河内
有形文化財	建造物	八坂神社	平成 7 年 6 月 30 日	小野
有形文化財	建造物	曾我神社	平成 7 年 6 月 30 日	小野
有形文化財	建造物	黄幡神社	平成 7 年 6 月 30 日	口大道
有形文化財	建造物	河内天神宮	平成 7 年 6 月 30 日	奥大道
有形文化財	建造物	八幡宮	平成 7 年 6 月 30 日	古城
有形文化財	建造物	八幡宮	平成 7 年 6 月 30 日	地吉
有形文化財	建造物	八坂神社	平成 7 年 6 月 30 日	十和川口
有形文化財	建造物	黄幡神社	平成 7 年 6 月 30 日	戸川
有形文化財	建造物	八坂神社	平成 7 年 6 月 30 日	広瀬
有形文化財	建造物	八坂神社	平成 7 年 6 月 30 日	井崎
有形文化財	建造物	郷社星神社	平成 7 年 6 月 30 日	十川
有形文化財	建造物	郷社三島神社	平成 7 年 6 月 30 日	昭和
有形文化財	建造物	興津高祖山普観寺（観音堂）	平成 10 年 2 月 26 日	興津
有形文化財	建造物	志和薬師寺	平成 24 年 1 月 6 日	志和
有形文化財	絵画	絵馬流し方の図	昭和 43 年 7 月 24 日	大正
有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来座像	昭和 43 年 3 月 19 日	大正
有形文化財	彫刻	木造薬師如来座像	昭和 43 年 3 月 19 日	大正
有形文化財	彫刻	木造憎長天立像	昭和 43 年 3 月 19 日	大正
有形文化財	彫刻	木造獅子一對	昭和 43 年 7 月 24 日	大正
有形文化財	彫刻	千羽鳥の木印	昭和 43 年 7 月 24 日	大正
有形文化財	彫刻	法華経石	昭和 43 年 7 月 24 日	大正

分類	種類	名称	指定年月日	所在地
有形文化財	彫刻	轟の石仏	昭和 60 年 11 月 14 日	昭和
有形文化財	彫刻	大雲寺の厨子・木版	昭和 63 年 12 月 1 日	久保川
有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像と脇仏	平成 17 年 12 月 14 日	下津井
有形文化財	工芸品	念仏鉦	昭和 43 年 3 月 19 日	地区内各所
有形文化財	工芸品	鰐口	昭和 43 年 3 月 19 日	地区内各所
有形文化財	工芸品	諸刃造り小刀	昭和 43 年 7 月 24 日	大正
有形文化財	工芸品	旧名本家の藩政末期の襖 10 枚	昭和 55 年 10 月 5 日	十川
有形文化財	工芸品	唐花唐草双鳥八花鏡	平成 14 年 9 月 30 日	打井川
有形文化財	古文書	旧村当時の議会の関係書類	昭和 58 年 6 月 4 日	十川
有形文化財	考古資料	環状石斧	昭和 57 年 5 月 20 日	打井川
有形文化財	考古資料	尖頭器	平成 9 年 6 月 2 日	十川
有形文化財	考古資料	磨製石斧	平成 14 年 9 月 30 日	木屋ヶ内
有形文化財	考古資料	小形有舌尖頭器	平成 17 年 12 月 14 日	大正
有形文化財	歴史資料	高加茂神社の銅戈	昭和 41 年 5 月 9 日	市生原
有形文化財	歴史資料	轟の板碑	昭和 60 年 10 月 14 日	昭和
無形民俗	踊り	若井の花取踊	昭和 41 年 5 月 9 日	若井
無形民俗	踊り	五ツ鹿踊り	昭和 47 年 10 月 1 日	地吉
無形民俗	踊り	小野の花取り踊り	昭和 47 年 10 月 1 日	小野
無形民俗	踊り	伊勢踊り	昭和 47 年 10 月 1 日	浦越
無形民俗	踊り	古城の花取り踊り	昭和 47 年 10 月 1 日	古城
無形民俗	踊り	里川の盆踊(こっぱ踊り)	昭和 48 年 10 月 1 日	里川
無形民俗	踊り	古城の三番叟	昭和 48 年 10 月 1 日	古城
無形民俗	踊り	大井川の花取り踊り	昭和 48 年 10 月 1 日	大井川
無形民俗	神楽	八社神楽	昭和 48 年 10 月 1 日	久保川
無形民俗	踊り	お伊勢踊り	昭和 49 年 11 月 15 日	下津井
無形民俗	踊り	花取踊り	昭和 49 年 11 月 15 日	下津井
無形民俗	踊り	盆踊り	昭和 49 年 11 月 15 日	打井川
無形民俗	踊り	地吉の綾踊り	昭和 53 年 8 月 31 日	地吉
無形民俗	踊り	里川の伊勢踊り、コ踊り	昭和 53 年 8 月 31 日	里川
無形民俗		茶上げ	昭和 43 年 3 月 19 日	下津井
無形民俗		施餓鬼	昭和 43 年 3 月 19 日	木屋ヶ内
無形民俗		神事(高岡神社)	昭和 47 年 8 月 1 日	市生原
無形民俗		郷社星神社の秋季祭祀	昭和 53 年 8 月 31 日	十川
無形民俗		山瀬の虫送り	昭和 53 年 8 月 31 日	古城
無形民俗		天日八幡宮秋季祭祀	昭和 53 年 8 月 31 日	小野
無形民俗		辻堂のお茶屋上げ	昭和 53 年 8 月 31 日	河内
無形民俗		盆行事四万十川の精霊迎え	昭和 53 年 8 月 31 日	河内
無形民俗		河内のオサバイサマ祭	昭和 53 年 8 月 31 日	河内
無形民俗		山瀬の花祭り	昭和 53 年 8 月 31 日	古城

分類	種類	名称	指定年月日	所在地
無形民俗		鍛冶の正月祭祀	昭和 53 年 8 月 31 日	十川
無形民俗		ふいご祭り	昭和 53 年 8 月 31 日	十川
無形民俗	神事	古城の水神祭	昭和 57 年 10 月 1 日	古城
無形民俗	踊り	河内の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	河内
無形民俗	踊り	小野伊勢踊り	平成 7 年 6 月 30 日	小野
無形民俗	踊り	口大道の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	口大道
無形民俗	踊り	奥大道の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	奥大道
無形民俗	踊り	十川の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	十川
無形民俗	踊り	川口の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	十和川口
無形民俗	踊り	地吉の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	地吉
無形民俗	踊り	戸川の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	戸川
無形民俗	踊り	広瀬の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	広瀬
無形民俗	踊り	井崎の花取り踊り	平成 7 年 6 月 30 日	井崎
無形民俗	踊り	久保川の花取り踊り	平成 9 年 6 月 2 日	久保川
無形民俗	踊り	浦安の舞	平成 9 年 6 月 2 日	昭和
無形民俗	花取	桧生原の花取踊	平成 10 年 2 月 26 日	桧生原
史跡	史跡	出羽左衛門の塚	昭和 43 年 3 月 19 日	大正北ノ川
史跡	史跡	下津井関番所跡	昭和 43 年 3 月 19 日	下津井
史跡	史跡	上山郷上分番頭大庄屋墓地	昭和 43 年 3 月 19 日	大正
史跡	史跡	窪川高等小学校跡	昭和 47 年 8 月 1 日	東川角
史跡	史跡	四手城跡	昭和 47 年 10 月 1 日	昭和
史跡	史跡	広瀬遺跡	昭和 48 年 10 月 1 日	広瀬
史跡	史跡	大道の番所跡	昭和 48 年 10 月 1 日	大道
史跡	史跡	駄馬崎遺跡	平成 9 年 6 月 2 日	十川
天然記念物	樹木	お雪椿	昭和 41 年 5 月 9 日	影野
天然記念物	樹木	松（文珠堂）	昭和 41 年 5 月 9 日	西原
天然記念物	樹木	熊野大杉	昭和 42 年 4 月 8 日	大正
天然記念物	樹木	榎の大木	昭和 42 年 4 月 8 日	大正
天然記念物	樹木	椎の大木	昭和 43 年 3 月 19 日	大正
天然記念物	樹木	桧原神社の大杉	昭和 47 年 8 月 1 日	高野
天然記念物	樹木	河内神社の大杉	昭和 47 年 8 月 1 日	川口
天然記念物	樹木	宝珠寺の深山白槇	昭和 47 年 10 月 1 日	昭和
天然記念物	樹木	山瀬のお茶堂（含、ナギの木）	昭和 48 年 10 月 1 日	古城
天然記念物	樹木	天神宮の槇三本とその周辺	昭和 53 年 8 月 31 日	大道
天然記念物	樹木	大道のコナラの大木	昭和 53 年 8 月 31 日	大道
選定保存技術	技術	牛鬼の面造り	昭和 53 年 7 月 20 日	古城